

東京電力福島第1原発
事故から2年を迎えたの
を機に、自民党の村上誠
一郎氏（衆院愛媛2区）
が「福島原発の真実 こ
のままでは永遠に収束し
ない」を出版した。「福
島原発が今なお危険な状
態にあることは変わりな
い。3・11はまだ終わっ
ていない」と訴える。

永田町 えひめ

村上氏は事故後、超党
派の国会議員による原発
対策国民会議を主宰し
た。著書は、計5回の同

「当時の政府や東京電
力は十分な情報を出して
いない。国民に本当のこ
とが伝わっていない」と
の思いが執筆の動機。「正

会議で招いた専門家の見
解と自らの国会質問を中
心にまとめ、事故対応や
放射能汚染の現実、除染、
内部被ばく問題と幅広い
テーマを扱う。

3・11まだ終わっていない

確な情報がなければ、今
後のエネルギー政策、原
発政策を考えられるわけ
がない」と強調する。

村上氏は党の「福島原
発事故究明に関する小委
員会」の小委員長にも就
任、27日から本格的議論
に入る。「いまだに本質
的な原因究明がなされて
いない」として、事故原
因が津波か、地震による
損傷かの点から再検証す
る考えだ。（多田良介）